令和４年度

まちづくり円卓会議報告書

西東京市市民協働推進センター

目　次

１.まちづくり円卓会議　要約・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

２.令和４年度まちづくり円卓会議・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

３.「今、これからのボランティアを考える」・・・・・・・・・・・・・・・２

開催状況
(1)日時
(2)場所
(3)参加者
(4)会議メンバー
(5)概要
議論の記録
参観者の意見
成果と課題
アンケート

４.その他　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６

広報

１．まちづくり円卓会議　要約

「まちづくり円卓会議」は、平成 24 年度から平成 30 年度まで地域連携促進事業の重点事業として実施しました。平成 31 年度は 1 テーマ 1 回の会議となり、令和 2 年度は 1 回開催し以降不定期開催となりました。

平成 24 年度から平成 25 年度にかけて、テーマを「障がいのある人もない人も分けない居場所づくり」として開催し、農福連携の居場所づくりの活動を実施し、会議メンバーを中心に、自主的に活動するグループ（ノーマライゼーション西東京の会）の誕生にも繋がりました。

平成 26 年度、平成 27 年度には、2 つ目のテーマとして「子どもの声に向き合うために～今私たちにできること～」を取り上げ、会議メンバーが関わっている「放課後@カフェ」を後押しし、会議メンバーを中心とした自主的に活動するグループの形成（西東京子ども放課後カフェ）に繋がり、市内中学校内での放課後カフェは 7 か所まで増えました。

平成 28 年度には、公民館の社会教育とゆめこらぼの市民活動支援を連携し、相互に循環・協働する動きにつなげる試みとして、初めて公民館の連続講座と連携・共催で「まちづくり円卓会議」を開催しました。柳沢公民館の「いきいき超高齢社会チャレンジ講座」全 7 回の講座の 6 回目にまちづくり円卓会議 1 回目を実施しました。2 回目のまちづくり円卓会議では「70 歳からの地域デビューについて考える」とテーマを絞り、より具体的な提案をもとに話合いを実施し、具体的な方向性について会議メンバーだけでなく参観者とともに合意することができました。

平成 29 年度は、前年度から継続し、70 歳代からの地域デビューをテーマに、柳沢公民館と連携・共催でまちづくり円卓会議を実施しました。会場の参観者との意見交換や地域デビューに関するアンケートなど多様な意見を反映した話し合いを進めることができました。そして、まちづくり円卓会議での話し合いを公民館講座に繋げ、新たな地域活動の担い手として繋がる方向性の試みとしてスタートさせることができました。

平成 30 年度のまちづくり円卓会議は、「空き家」と「ひきこもり～いきづらさ～」をテーマに会議を 1 回ずつ開催しました。いずれもテーマに関わる当事者から話を聞き、多様な視点から事実に向き合い、参観者で共有しました。様々な事実や事例などが提供され、当事者の課題を社会課題として認識することに繋がりました。

令和元年度は、2 回まちづくり円卓会議を開催しました。「ひきこもり ～ ふ み だ すきっかけ」は、前年度のテーマを継続して会議メンバーの連携や協働のアイディアの共有に繋がりました。

「再出発ができる社会へ・・・少年・少女との伴走を考える」では、子どもたちとの関わりをもつ地域のステークホルダーと現状を共有しました。取り上げにくいテーマに向き合い、事実を知ることから、自分ごととして向き合うきっかけになりました。

令和２年度は、「みんな　いろいろ　～LGBTQ から話し合おう」をテーマに、多様性を尊重する社会の実現にむけて子どもたちや若者たちと関わりのある地域のステークホルダーを会議メンバーに現状を共有しました。当事者の体験を通して語られた事実は、深い話合いに繋がり、社会課題としての意識も高められました。

２．令和４年度のまちづくり円卓会議

今年度のまちづくり円卓会議は、西東京ボランティア・市民活動センター(以下ボラセン)と西東京市市民協働推進センターゆめこらぼ（以下ゆめこらぼ）とコラボですすめた『ボランティアのつどい』の中で、実施しました。

【ボランティア・市民活動が、社会のため自分のために大切な役割を果たすものであり、その人の「やりがい」となり、社会を変革する力を持つ存在であることを伝える】を柱にし、話し合いを重ねて計画を一緒にたてました。

10月5日には、ボラセンやゆめこらぼの課題（必要なこと、求められていること）に気付き、利用者のニーズにあった事業についても考えられるようボランティア実践者5人から現状を語り合ってもらい、話合いの場を持ちました。

ボランティア実践者は、それぞれの活動を知り、今後に活かせる気づきに繋がりました。

ボラセン、ゆめこらぼは、ひとりひとりに寄り添うこと、ひととひととのつながりで伝え合うという基本的なことの大切さを改めて実感しました。今後どのように事業に反映できるかについては課題が残りましたが、具体的な課題も見え、ボランティアのつどいで実施するまちづくり円卓会議に繋ぎました。

コロナ禍で社会活動そのものが低迷しているようにも見えましたが、地域の多様なひとたちと繋がり、地域課題に向きあいながらボランティア活動を続けている実践者がいること、普段と変わらずボランティアを受け入れて事業を展開している事業者、受け入れたり、コーディネートする側の立場のひとたちが、コロナ禍が収束しつつある今だからこそ、今後のボランティア活動について、深く話合いができる場をつくりました。

まちづくり円卓会議の場で、それぞれ違う立場の人たちのボランティア活動の現状を知ること、それぞれが話合いを深め合い、一緒に考える、そして気づきに繋いでいきました。

筋書のないまちづくり円卓会議は、ファシリテーターが進行し、話し合いの流れはリアルタイムに板書を行い可視化しました。

３．「今、ボランティアのこれからを考える」

開催状況

(1)日　時：令和5年3月5日(土)　13:45～16:15

(2)場　所：田無総合福祉センター　2階　第一会議室

(3)参加者：ファシリテーター　山ノ内凛太郎、米元洋次（合同会社 Active Learners）
板書　肱岡優美子　山嵜威志（imagicalibra）
会議メンバー　5人（以下のとおり）
参観者　　38人

(4)会議メンバー：小野修平（ジョージ防災研究所・ぽくるーむ）、熊谷紀良（東京ボランティア・市民活動センター　統括主任）、後藤紀行（西東京市役所・健康福祉部・地域共生課・相談窓口係・福祉丸ごと相談窓口・生活サポート相談

員）、関根裕恵（西東京市社会福祉協議会・福祉支援課長）、馬渕将成（～お散歩＆日常デイ～おとなりさん。小金井公園株式会社ナチュラルスタンス）

(5)概要：　「今、これからのボランティアを考える」をテーマに、これからもボランティア活動が歩みを止めることなく、すすむにはどうしたらよいのか一緒に考えました。

会議メンバーは、コロナ禍でも、地域の課題に向き合い、地域の人と繋がり、連携しながらボランティア活動を実践されている市民。ボランティアを受け入れる側の事業者とコーディネート側の 5 人。

参観者は、テーマに関心のある市民とボランティア登録者など 38 人。

話合いは、会議メンバーの自己紹介からスタートしました。会議メンバー自らが聴きたいことを聴き合うという流れで話合いがすすめられました。

前半は、まずボランティア活動をする原動力を共有。また、続けるために重要なことやハードルについて意見交換をしました。

後半は、若者や子どもたちのボランティア活動を始めるきっかけについて意見交換し、ボランティアを広げ、継続するための工夫など深堀していきました。

活動をする上での“思いの共有”、“話し合い”、“積極的なコミュニケーション”、“若者への寄り添い・可能性・一緒に考えること”など現場だからこそ見え、実感していることを伝え合い、聴き合いました。

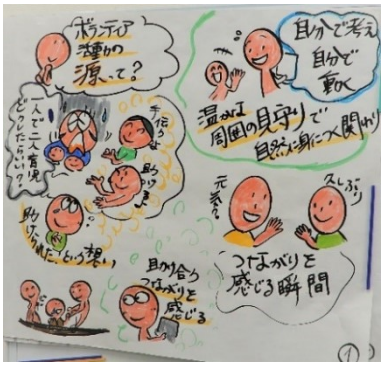
　最後は、ボランティアの重要なキーワードを出し合い、話合いを通して気づいたこと、今後に活かしたいことなど宣言しました。

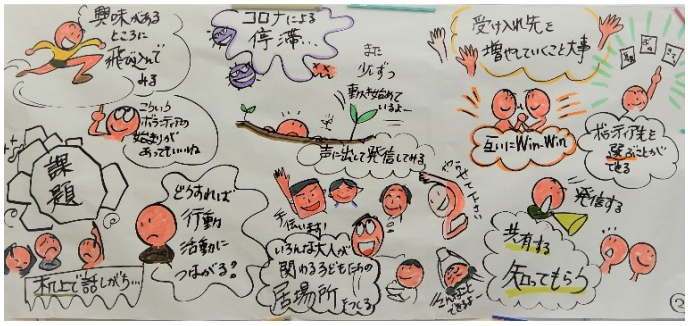
議論の記録

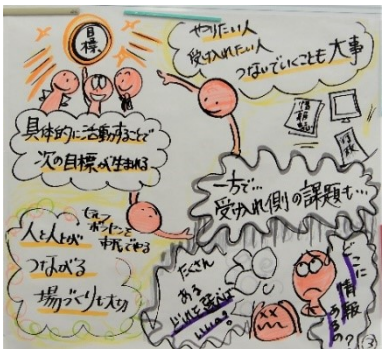
まちづくり円卓会議の対話は、リアルタイムでグラフィックに変換。

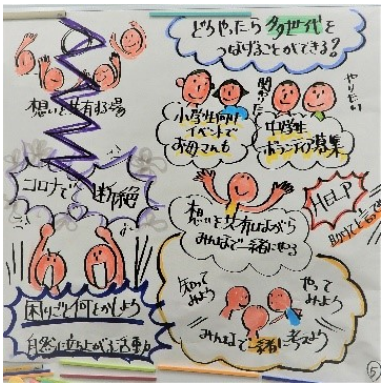
可視化して模造紙に記録。（以下の板書）

板　書　（一部）









参観者の気づき・意見

会議メンバーの話し合いを聴きながら、頭の中で思考を膨らませた上で気づきなどを付箋に記入してもらい、それを貼りだしました。以下付箋の意見抜粋。

・困っている人は専門職の相談をうけるより、なんでもない地域のおばちゃんの声かけ、手助けの方が嬉しいと思う人がいると思う。実は市民ボランティアの方が柔軟でスゴイ！！

・助けて！手伝って！と言えない人たちに何ができるかを考えたい。

・やっぱりボランティアは“いい”と思うきっかけになりました（自分の意志の確認ができた）まだまだこれからも続けたい！続けよう!!と思いました。きっかけをありがとう！

・ボランティアがなくなる世界がゴール?想いやりやお手伝いを実践する世界でありたい。

・「あっ子ども食堂のおじさん」「市役所に行くのは、ハードル高くて・・・」忙しいかもしれないけど、市役所の職員さんも１人の在勤者として一緒に活動してくれるといいですね。

・本市の政策・事業の現状をふまえた課題と今後の在り方も議論したい！

成果と課題

成果

・初対面の会議メンバーどうしが安心して話合いを積極的にすすめられたのは、参観者、会場にいるひとり一人の理解があってこそ実現できた。

・会議メンバーは、現場で起こっている事実を多様に伝え、それぞれの想いを共有することができた。

・ボラセンと共催することで、多くの参観者と同じテーマについて、考える場をつくることができた。

・新しい形で、ボランティア登録者の懇談会の目的を果たすことができた。

・話し合いを板書で可視化することで、休憩時間などに参観者の多くが会議をふりかえることができた。

・まちづくり円卓会議を可視化したことにより、参観者の理解が得られたと思う。

課題

・短時間のなかで、会議メンバーの議論を深めることと、参観者の気持ちを受け止めることが難しかった。

アンケート（一部抜粋）回答 14 人

印象に残ったこと

・できる時間にできることをやる、そして楽しむこと！

・ウィンウィンの関係づくりお互いの意識やミッションの共有

気付いたこと、今後にいかしたいこと

・思いを共有することでうまれる可能性がとても大きいときづきました。

・ボランティア活動の 10 年 20 年先の中・長期的展望もしたい。

・やっぱりボランティア活動は自然体で楽しむのが一番だと思いました。各々の得意なことや興味のあることで、楽しく交流できると良いと思うので、少しずついろんな方々を巻き込んで？企画をやってみたいと思いました。

その他、ご意見

・沢山の団体が活動しているのでそれをつなげる活動や集会をお願いしたい。

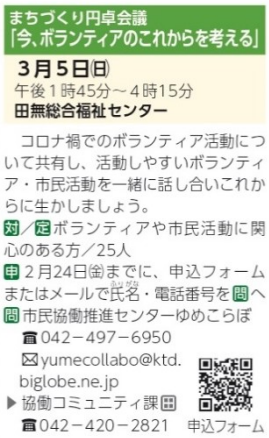
・このような形で会議に初めて参加しましたが、とても楽しかったです。1 人の方が一方通行で話すだけの形よりとてもよかったです。

４．その他

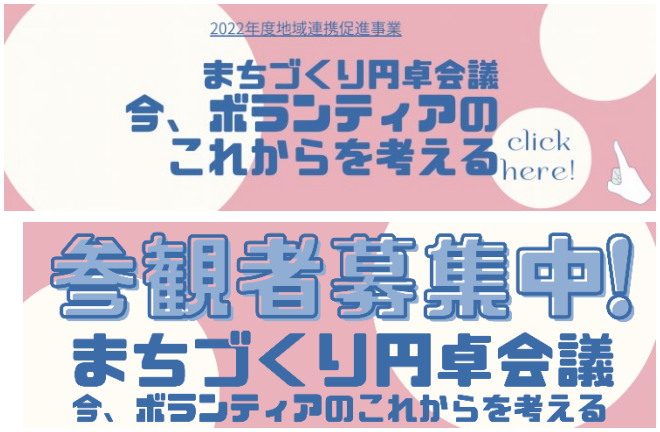
広報

チラシ・市内掲示板に掲示

市報



ホームページ



SNS